

1st day  
PM

# 第1会場●4F 視聴覚室

■司 会／岩永陽之介 長崎県野母崎町教育委員会 社会教育課長  
葉名 雅之 広島県立生涯学習センター 主任専門員

## 1 チルコムAから“チルネット(こどもネットワーク)”活動へ 13:30～13:55

—子どものためのボランティア養成と大人ネットワークの形成—

ト蔵 久子(鳥取県米子市) チルネット(こどもネットワーク) 代表

チルコムA20年の経験を踏まえ、冒険遊び、外遊び、みなとやまプレーパークづくり(行政と連携)、子どものためのボランティア養成講座など子どものための豊かな活動舞台を創造する。方法論上の基本は大人が楽しむ仕掛けづくり。活動の視点は「ものより、思い出」、関わる大人は「自分も楽しむ」である。継続的な活動と交流のネットワークの形成が目標である。

## 2 小さな芸術家になろう 13:55～14:20

—大学生と子どもたちが創る美術館ワークショップ—

緒方 泉(福岡県福岡市) 九州産業大学美術館学芸室 室長

大学の芸術学部が有する「ひと、もの、こと」の教育資源を活用した子ども向けの美術館ワークショップである。大学生、大学院生が自分達が学んだ成果を社会的に還元する事を目的に始められたプログラムである。具体的な目的は子どもの造型表現活動を高め、小さな芸術家を育てたいとしているが、合わせて大学美術館を地域に開放して行く機能も同時に追求している。プログラムでは、「しっくい絵画の製作」、「Tシャツづくり」、「紙粘土による造型」などをおこなってきた。

ティータイム 14:20～14:55

## 3 「里山学校」構想と山村交流の実験 14:55～15:20

—廃校(「庄内ゆうゆう館」)を活用したボランティア、NPO、生涯学習行政の協働—

後藤 哲三(大分県庄内町) 庄内町教育委員会生涯学習課 課長

「しょうない里山学校」は豊かな庄内の自然を生かした環境にやさしい地域づくりとそれを支える人づくりをすすめるプログラムである。庄内町とNPO「緑の工房ななぐらす」の共同事業である。目標は「面白く」、「分かりやすく」、「ためになる」交流・体験活動の創造である。期待される効果は、「物心両面における都市と農村の交流」、「地元の人材活用と地域の活性化」、「参加者に届く環境教育」である。最終的には「住んでみたくなる」町を目指している。

## 4 生ごみを宝に—NPO伊万里はちがめプラン 15:20～15:45

—市民による資源循環型社会作りへの挑戦—

福田 俊明(佐賀県伊万里市) 伊万里はちがめプラン 代表

NPO伊万里はちがめプランは飲食店の残飯処理の工夫から誕生した。平成6年以來の研究で、生ゴミを分解する微生物が発明され、平成11年には生ゴミの堆肥化プラントが完成した。今では飲食店及び食品関連事業所約60軒、一般家庭約100世帯から日量約1.6トンの生ゴミを堆肥に転換している。堆肥は佐賀大学農学部や農家が栽培実験を実施している。また希望者(農家)には販売もし、野菜や米など直売店で人気となり資源のリサイクルシステムが完成したのである。本プランを支援する「クリーンの環」という協力者の団体も設立され、リサイクル構想はさらに進んで栽培加工の過程を含んだ「菜の花エコプロジェクト」にまで発展している。

## 5 総括討論 15:45～16:15